

コロナ禍で生き物との関わりにも影響 小学生1万人超の調査で明らかに ～こども「いきいき」生き物調査2021 調査結果のお知らせ～

横浜市環境科学研究所では、令和3（2021）年の夏休みに、横浜市立小学校341校の児童を対象に、家や学校の近くで見つけた生き物を報告してもらう市内全域調査を実施しました。167校、11,037人の児童からの回答結果がまとまりました。本調査は平成25年から開始しており、今回で8度目になります。

コロナ禍により児童と生き物との関わりが減少した可能性があること、全国的に減少しているスズメや、南方系のチョウであるアオスジアゲハが市内東側の臨海都市部で多く確認されていることなど、今後の生物多様性保全に資する貴重な情報を得ることができました。

1 事業名

こども「いきいき」生き物調査 2021

2 目的

- ・調査を通じて地域の自然や生き物への関心を高めてもらうこと
- ・生物多様性保全に資する基礎データを取得すること

3 調査方法

横浜市立小学校341校の5年生30,271人（令和3年5月1日現在）に調査票（右図）を配布し、過去1年間に、「家や学校の近く」で見つたり、鳴き声を聞いたりした生き物について、○をつけてもらいました。

4 調査対象とした生き物

調査対象とした生き物は毎年変えており、今回は次の9種類の生き物です。生き物の分類（同定）のしやすさに配慮しながら、市内の自然環境を特徴づけるもの、減少または増加傾向にあるものなどを選定しました。

- ・ツバメの巣
- ・スズメ
- ・カブトムシ
- ・コウモリ
- ・ススキ
- ・アオスジアゲハ
- ・ヘビのなかま
- ・カメのなかま
- ・ホタルのなかま

5 調査結果

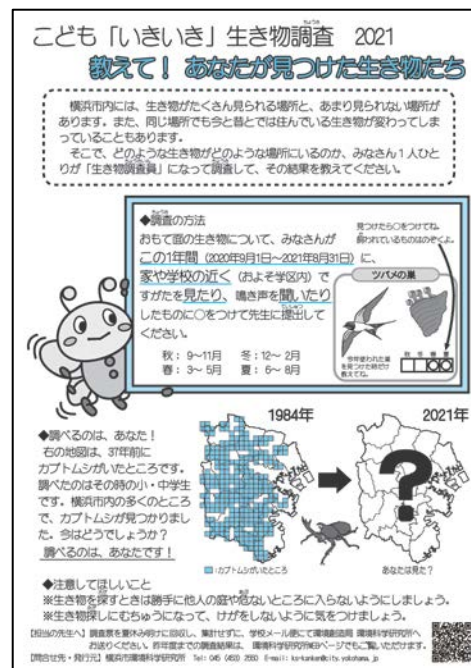
学校ごとに、対象の生き物を見つけた割合（以下、確認率）を集計し、その情報をもとに市内全域における確認率の高低を色の濃淡で示しました。

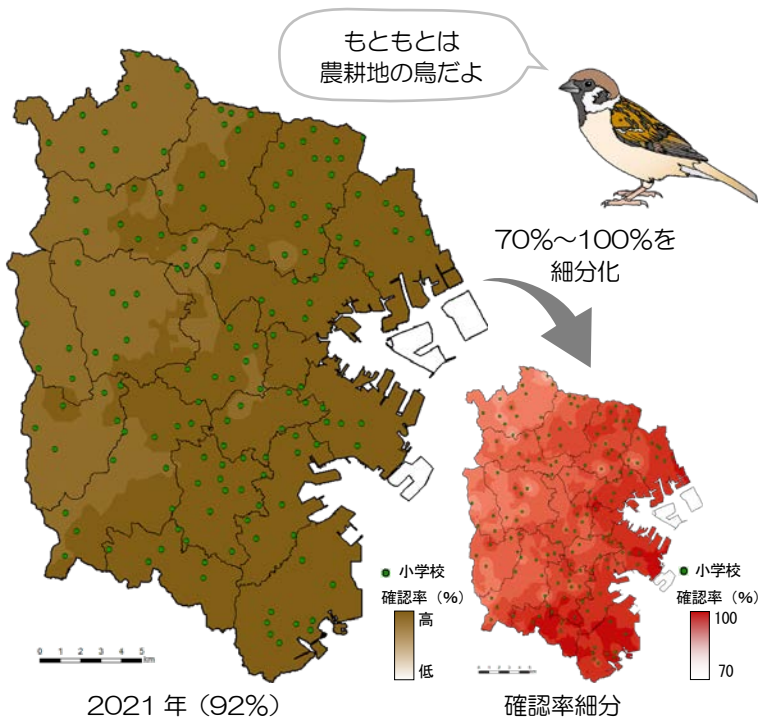
8種類の生き物において、過年度に比べ確認率が約3～11ポイント低下しており、コロナ禍による行動自粛が生き物とのふれあいの機会減少につながっている可能性があります。

本調査は、1万人以上の児童が参加することにより、横浜の生物多様性を知る上で、非常に精度の高い調査結果が得られています。

結果の詳細は、報告書として横浜市環境科学研究所 Web ページに公開するとともに、全小学校へ配布します。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/naiyou/tayosei/ikiiki.html>

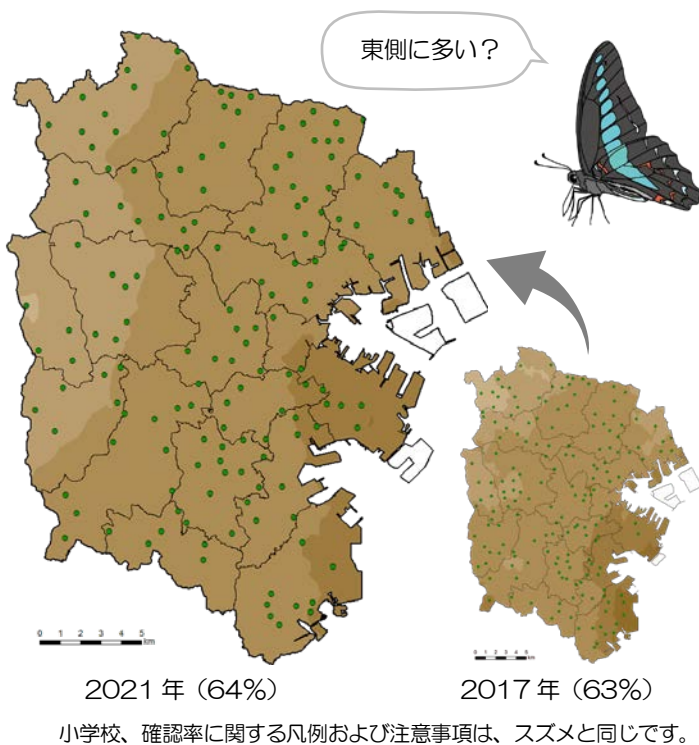




【スズメ：市全体の確認率 92%】

学校ごとの確認率は 74% から 100% で、全体の確認率も 92% と比較的高めでした。スズメは市内では確認しやすい生き物ですが、全国的に減少傾向にあるとされています。2017 年に続く 2 回目の調査ですが、どちらも確認率は高く、また市内東側での確認率が高い傾向にありました。東京都では郊外より都心部の方が数が多いという報告があり、横浜でも同じかもしれません。今後、都市化や生活様式の変化によってスズメの確認率が変化することも考えられます。

注) 色の濃淡は、小学校ごとの確認率をもとに統計的に計算、作図したものです。一部の区頭などは解析対象外としました。
注) 作図にあたっては、GIS ソフトを用い、1 校あたりの回答数が 10 人以上であった 157 校のデータを使用しました。



【アオスジアゲハ：市全体の確認率 64%】

学校ごとの確認率は 31% から 92% で、はねの模様が目立つ、大きめのチョウであるため、確認率は比較的高めでした。東側の臨海都市部で確認率が高かったのは、アオスジアゲハが町なかに街路樹として植栽されることも多いクスノキやタブノキに産卵するためと考えられます。今回調査対象とした種のなかで、唯一アオスジアゲハの確認率は増加しました。コロナ禍による行動自粛が影響している可能性を考えると、アオスジアゲハは数値以上に確認しやすい生き物になっているのかもしれませんが。本種は本来、南方系のチョウであり、市内では全域に見られますが、温暖化の進行などにより、今後確認率は変化するかもしれません。

小学校、確認率に関する凡例および注意事項は、スズメと同じです。

6 その他

学校ごとの確認率は観察場所へのアクセスのしやすさなど、さまざまな要因により変動し、必ずしも生き物の生息密度を表すものではありません。調査は長期的な視点での解析・考察が重要であり、来年以降も対象とする生き物の種類を変えながら継続実施する予定です。

お問合せ先
環境創造局環境科学研究所長 百瀬 英雄 Tel 045-453-2550